

**令和5年度  
第2回藤島地域振興懇談会  
会議録(概要)**

期 日：令和5年10月4日(水)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

## 第2回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和5年10月4日(水) 18:00～20:30
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員（五十音順） 11名  
板垣 一紀、大沼 富美雄、近藤 直志、今野 良和、  
齋藤 金廣、齋藤 直美、佐藤 智信、島崎 紅美、  
高山 千代子、丸山 裕司、萬年 義憲
- 欠席委員 3名 池田 玲子、鈴木 結花、疋田 勝幸
- 市側出席職員
- 〈藤島庁舎〉 支所長 成田 讓  
総務企画課長 小林 雅人  
市民福祉課長 出村 真一  
産業建設課長兼エコタウン室長 齋藤 敬子  
総務企画課課長補佐 後藤 春雄  
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤 優
- 〈企画部〉 政策企画課政策企画専門員 帯谷 友洋  
地域振興課地域振興専門員 齋藤 眞一
- 〈教育委員会〉 教育部長 永寿 祥司  
参事兼管理課長 清野 健
- 〈建設部〉 都市計画課長 五十嵐 泰彦  
都市計画課都市計画係長 若生 真人  
商工課中小企業振興主査 本間 勝則
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 坂井 孝朗
- 傍聴者 なし

### ○次 第

1. 開 会 （小林 雅人 総務企画課長）
2. あいさつ （萬年 義憲 藤島地域振興懇談会会長）
3. 報 告
  - (1) 藤島地域教育振興会議の経過報告について
  - (2) 第1回藤島地域振興懇談会での質問事項について
4. 説 明・協 議
  - (1) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの策定について 資料1～4
  - (2) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて 資料5
  - (3) その他

○開会

○あいさつ

**萬年会長**

こんばんは。本日はお忙しい中、第2回となります藤島振興懇談会にご出席いただきまして本当にありがとうございました。

第1回の懇談会では、藤島地域の令和5年度の主要事業について、また第二次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて議論して頂き、皆様からいろいろなご意見・ご提言を頂きまして本当にありがとうございました。今日は藤島地域の振興に係る中間の見直し案をお示しし、皆様方から議論を頂いて完成形に近づきたいと考えております。

また、去年の10月に、藤島地域の望ましい教育環境を検討するために藤島地域教育振興会議が設立されました。今回、一定の方向性が示される見通しが立ち、教育委員会の方々から経過報告を頂きます。さらに、今年度から協議が始まった中心市街地将来ビジョンの策定につきまして、市都市計画課の方々から説明して頂くことになっております。

いずれも藤島地域のみならず、鶴岡市全体に関わる事項でございますので、皆さんから忌憚のないご意見を頂き、審議して頂きたいと思っております。有意義な懇談会にしたいと思っておりますのでよろしくお願いを申し上げます。挨拶といたします。

○ 報告

(1) 藤島地域教育振興会議の経過報告について

—説明— 藤島支所長 成田 譲

教育部長 永寿 祥司

教育委員会参事兼管理課長 清野 健

【報告資料1の説明】 ※ 説明内容省略

○ 質疑

**委員**

資料5の人数は16名ですが、資料7の人数が17名となっています。最初の説明では18名ですが、不明の方の部分をお聞きしたいと思います。

**清野参事**

欠席者の方がいる場合がありますが、会によって若干参加者数が異なる状況です。

**委員**

680世帯のアンケートで回答率が104世帯、15%ということでした。回答されたのはお子さんがいる世帯が中心と思うんですが、お子さんがいるけど回答しなかった方はいらっ

しやらなかったのでしょうか。

### 清野参事

アンケートの対象としたのは、小学校、中学校、或いは幼稚園保育園にお子さんがいる世帯に限定して実施しております。回答頂いた 104 世帯の方はすべてお子さんがいる世帯でございますが、ご指摘の通り期待した回答数には至らなかったと認識しているところでございます。

#### (2) 第 1 回藤島地域振興懇談会での質問事項について

－説明－ 総務企画課長 小林 雅人

### 小林総務企画課長

委員から質問のありましたスクールゾーンの設置の要望についてご報告いたします。スクールゾーンは小学校を中心として、半径 500 メートル程度の通学路が対象となるものでございます。スクールゾーンに設定されると、登下校時間帯の車両の通行禁止、一方通行や速度規制などの制限が課せられますし、規制の開始地点には指定時間等を示すスクールゾーンの路面標識表示、交通標識が設置されます。また、スクールゾーンの設定には、規制に係るエリアの住民、商店、企業の関係者の方々からの理解、同意を得てもらう必要がございます。

要望の流れは、まず、学校や教育委員会への働きかけにより、警察や道路管理者が歩行者の実態や道路の構造、地域住民の意見を総合的に判断し、最終的には公安委員会が設定するものでございます。今回のお話につきましては藤島小学校に要望して頂き、関係者による通学路の安全点検で実際に現場を確認し、スクールゾーンが必要かどうか検討される流れになるものでございます。

また、車道へのスピード注意等の注意喚起につきましては道路管理者への要望になりますので、これにつきましては保護者や学校などの関係者と協議をされました上で、関係機関に要望されるようになるものと思います。

児童生徒の通学に関しましては、教育委員会の所管と考えておりますが、庁舎では地域の交通安全の啓発にも取り組んでおり、子供たちの交通安全の確保は重要であると認識しております。

### ○ 説明・協議

#### (1) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの策定について

－説明－ 都市計画課長 五十嵐 泰彦

都市計画課都市計画係長 若生 真人

【資料 1～4 の説明】 ※ 説明内容省略

○ 質疑  
委員

旧鶴岡市の市街地の中心部の活性化は否定しませんし、そこが今非常に弱っているので力を入れたいんでしょうけれども、私たちはよほど用が無ければ中心部には入って行きません。買い物に行くにしても、郊外で用が足せるわけですので、この赤い線のエリアの中に定住人口はどれくらいなのか、そしてこの周辺にはどれくらいの人が定住しているのか、その辺も気になる数字です。その人たちにとっては非常に利便性が向上しているということになるわけですが、合併して旧町村から中心部に行く機会というのは極めて少なくなっているわけです。その辺を十分考慮しながら、中心市街地も含めていわゆる地域の拠点、小さな拠点の整備にもっともっと力を入れるべきではないかと考えております。

その辺について、策定委員会の中でどのようなことが議論されているんでしょうか、お尋ねしたいと思います。

五十嵐都市計画課長

ご質問、ご意見ありがとうございます。

買い物は郊外で事足りるし、中心市街地にわざわざ行く必要もない。そういう状態を少しでも変えたいのです。

かつて、昭和の時代の銀座通りは誰もが遊びに行きたくなる商店街でした。ところが今、商業の構造は大きく変わり、ネットでいろんな物が買えるし、郊外には広い駐車場がある大型店舗があって誰もがそこに向かう。ですから、中心市街地というと、どうしても中心商店街というイメージと重なってお考えになる方が非常に多いだろうと思います。もはや前のような商店街を取り戻し、それで人を呼ぶというのはなかなか難しいと思うのです。民間事業者の方々にヒアリングしても同じようなことをおっしゃる方がいらっしゃいます。

ですから、例えば酒田のミライニのように駅前に図書館を持ってきて賑わいの拠点にするとか、必ずしも商業だけでまちの魅力を高めるということではなくて、中心市街地に特色のある公共施設を整備して、配置を工夫して中心市街地に人を呼び込む。あと、荘内病院にはたくさんの方が来ますが、周りに魅力がないものだから診療が終わるとすぐ帰ってしまうこともあると思いますが、そうした方々にも行き帰りで立ち寄ってもらえるような楽しみがある、そういう中心市街地にしたいと考えているところです。

本題として、その地域の拠点の振興も非常に重要であり、そのことについて策定の過程でどのような議論がされているのかというご質問がございました。

策定委員会はまだ1回開催しただけで、しかも中心市街地のあり方についての議論ですので、その地域の拠点をどう振興していくかについての具体的なご意見は頂戴していな

い状態ですけれども、事務局としては先ほど申し上げた通り、中心だけが発展すればいいとは思っておりません。

資料3をご覧くださいと思います。左側に多極ネットワーク型まちづくりによる将来都市構造図と書いてあります。この多極という言葉が非常に重要で、いわゆる中心市街地一極ではなくて、藤島のところには濃いピンク色で丸が書いてありますし、羽黒とか榎引、朝日、温海、大山あたりにもピンク色の丸がありますが、これがまさに地域の拠点であります。その極は幾つもあり、それぞれの極は中心市街地の極も活性化しなければならないし、藤島の地域の極も活性化しなければならない。そういう考え方でおります。

そして、その拠点と拠点の間を道路や鉄道やバスなどで結ぶことによって、地域にいながら、便利な生活ができることを目指しております。

これから人口減少は、残念ながらどんどん進んでいくと思いますが、今までのようでは全体が薄まってしまふし、全体の活力が失われてしまいますので、この多極と言われている一つ一つの極をまず元気にしていこう。まず中心市街地を元気にしよう、藤島も元気にしていこう。大山も元気にしていこう、温海も元気にしていこう、そういう一つの拠点を作っていこうというふうに考えています。決して一極集中ではなくて、多極で頑張っていくという考え方でおります。

## 委員

旧鶴岡市の考え方であれば、それはそれでいいと思います。

例えば、これから大規模な図書館を整備するということになれば、何も中心部に作る必要はないと思っている。どこからも全部アクセスできる、或いは広い駐車場がとれる、そういう場所にこれから整備していくという考え方がなければならないと思う。いわゆる周辺部の皆さんが全て中心に行かないと用を足せないと言う考え方は、以前の考え方ではないかと思っています。

市街地の中の駐車場は、大規模な集会なんかやると狭くて困る。特に文化会館なんか大変でしょ。だから文化会館なんか外に出せば一番効果が出る施設だと私は思っていたんですけど、何としてもそこに作るということだったので、これは仕方なかったわけですけど、公共施設を整備する際は考え方を変えていく必要があると思っています。

すべて公共施設を真ん中に集めるっていう考え方ではなくて、数多くのいろんな方々が利用する施設については、そうしたことも考慮しながら場所を考えていくということで、中心市街地だけでなく、そういう考え方もとってもらえないかという意見です。

## 五十嵐都市計画課長

ありがとうございます。

公共施設をすべからく真ん中を集めるということでは無いと思います。

公共施設にはいろいろな機能、役割があります。その機能と役割に応じて最適な場所がやはりあると思います。それが真ん中である場合もあるでしょうし、郊外である場合もあるでしょうし、それはしっかり考えなければならぬと思います。

## 委員

私も同じ意見です。

出羽商工会は藤島・三川・羽黒・温海・朝日など鶴岡市をぐるりと囲んでいる会員で構成されています。市街地中心になってしまうと、昔の郡部と言っている所の商工業も疲弊してしまう心配があります。ですから中心地だけでなく、車の駐車場がいっぱい取れる所に施設を持っていくのも一つの方法だと思います。文化会館で何か行事があると市内が渋滞を起こすんですが、車を止める所が無くてグルグルっと回っているんですよ。みんなが使う公共的な施設だったら藤島でも羽黒でも櫛引でもいいと思います。私達は市県民税も払っていますが、自分の地域を良くしたいから払っている訳なので、もうちょっと郡部の方々にも配慮する必要があると思います。

## 五十嵐都市計画課長

冒頭に申しあげました通り、真ん中だけが活性化すればいいと思っているわけではもちろんありません。ただ、真ん中の元気も取り戻したい。今中心市街地に行く用事はあんまり無いって仰った、そういう元気のない状態なんです、それはそれで一つ問題だと思います。

例えば、藤島の皆さんが藤島を元気にしたい、羽黒の方が羽黒を元気にしたいと思うのと一緒に、鶴岡のまちの中も元気にしたいと考えております。地域をないがしろにするつもりは全くありません。

でも、今委員がおっしゃることも非常によくわかりますし、そのことも踏まえて、しっかり考えて参ります。

### ○ 説明・協議

(2) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて

—説明— 総務企画課課長補佐 後藤 春雄

【資料5の説明】 ※ 説明内容省略

### ○ 質疑

#### 萬年会長

第1回藤島地域振興懇談会で出されました質問や、ご意見を踏まえた修正を踏まえて修正された施策の方向と主な施策の案につきまして事務局から説明がございましたけど

も、全体的に眺めてお気づきの点がありましたら、ご意見など伺いたいと思います。

## 委員

地域活動センターなどの施設環境の整備とありますが、渡前の活動センターの体育館の考え方はどうなっているのでしょうか。

私は25年ぐらい前にスポーツ少年団の育成会長をしていた時に、吹雪になると体育館に雪が入ってくるので子どもたちが雪を掻きだすんですが、ボールも弾まないし、父兄から何とかしてくれと頼まれました。ずっと何とかしたくてここまで来たんですが、なかなか前に進みませんでした。それで皆川市長が2期目の選挙の時に栄と渡前の多目的施設の整備の公約を掲げたんです。それを聞いて渡前地区の人はどれだけ希望を持ったかわかりません。市長がやっと公約に載せてくれた渡前の体育館について、庁舎の方ではどういう考えなんでしょうか。

## 成田支所長

毎度、同じ回答にしかなく大変申し訳ないと思っております。これまでコミュニティの方向から、或いはスポーツ施設としての方向からということで、検討を所管課とも協議をして参りましたが、施設整備はやはり難しい状況でした。その後、伝統芸能とか地域振興とか、何かの補助事業なり有利な建設の方法を探してはいるのですが解決方法がまだ見えていない状況です。もちろん市長公約ということもわかっております。

雪の施設への入り込みとか雨漏りについては一定程度、支障がないような補修をさせていただいているところです。何らかの方法で、地域の皆さんに一定の方向が示せるように努力して参りたいと思っております。庁舎としても後期の総合計画に盛り込んで、早期にその方向性を示したいと思っております。

## 委員

前回の地域振興懇談会で、成田支所長から雨降りのときの子供の遊び場がないということでしたが、藤島の中心市街地になくはないものです。今は車社会ですので、ぜひ渡前の体育館に雨の日の子供の遊び場も兼ねて、何とか考えていただければありがたいと思います。

もう一つ、この懇談会はみんなの意見を聞いて先に進むものだと思っております。前の有識者の委員の出羽商工会長さんが懇談会でこの施策を見て、何か違和感がある、なぜ農業政策ばかりなのかと言ったことは覚えていると思っておりますが、私もそう思います。前回の懇談会で、肥料入れる袋足りない、十分準備してありますとのやり取りがありましたが、我々商工業者は競争の中で一生懸命利益を上げようとして努力しているのに、農家にこれだけこ入れしているのかと思いました。農家は基幹産業だと言っている間に、米沢とか村山地区では工業誘致をどんどん進めていて、前は庄内がトップだったの

が今は3位まで落ち込んでいる。いつまでも基幹産業という言葉に惑わされないで、空き家問題や少子化などいろんな問題がありますので、行政でやるべき仕事に戻して頂きたいです。

#### 成田支所長

表現が弱いかもしれませんが、実はイの歴史と文化の部分の中に「Hisu 花」のことや東田川文化記念館のこともあります。Hisu 花と記念館を使つての観光拠点化や観光振興で、具体的には商工会との連携だと思っております。観光振興というのは表現が直接でなく弱かったのかもしれませんが、庁舎としてはこういったことで商工業への注力を今まで以上にして行くという決意表明をさせて頂いたということです。

#### 委員

この政策を見ると、前の方は農業政策ばかりなんです。我々が家を建てるとき、昔は経験で家を建てられたのですが、今はいろんな資格があるんです。玉掛け、建て方、内装に入れば断熱材マイスターなどありとあらゆる資格を取らないといけません。農業は庁舎の予算を使って研修会とかいろんなことができまして幸せだと思います。

だから、農業だけの政策なのかと言っているんです。

#### 委員

私もまさにその通りだと思います。商工業者としては仕事が少ない。中心部の方で何十億円の大きい工事を今やっていますけれども辺りを見回してください。藤島も他の庁舎も各施設もしかり、老朽化が激しくて錆びたりしていますが全然予算が回ってきません。こっちの方に回らないと藤島の商工業者は仕事がありません。辛うじて個人的にやっていますけれども、そういう面で農業ばかりではなくて商工業者の方も見てほしいと思います。

私はぽっぽの湯の役員をやっていますが、ぽっぽの施設も老朽化が激しくて、大変みすぼらしいというか汚い所も見えます。庁舎の方で温泉の方を掃除してもらって頑張っていますけれども、何回言っても本庁の方で受け取ってくれないのが実情だと思います。庁舎には何とかその辺を通してもらいたいと思います。

それでも予算を取れないのならば、ここのメンバーで提言しながら頑張っていた方がいいのではないかと深く感じておりました。

#### 萬年会長

商工関係の部分がまだ弱いんじゃないかというご指摘ですけれども、その辺はどうでしょうか。

## 成田支所長

今回の総合計画は10年間の中間見直しというスタンスです。大きい施策を展開するか、新たに作るというスタンスでは考えてはいなくて、これまでの5年間で踏まえた上で今現在不足していることを加えていく形態での今回の提案です。おっしゃられることはもっともだと思いますが、全体的な商工業者への支援については、市の商工観光の方の分野にもなりますので、そちらの方にもお話をさせていただきます。

庁舎でできる事業はソフト事業が中心で、ハード事業はなかなか予算が取れない状況です。今日は政策企画の皆さんも同じ話を聞いておりますので、きっと強く本所の方にもプッシュしていただけるものと思っております。

商工業者とは、商工会を中心に、一つはHisu花を中心とした盛り上がりを作っていきたいと考えておまして、これから5年間の計画に盛り込んでいくということです。

もう一つ申し上げれば、庄農うどんも連携事業で、秋になると藤島が活気づく一つの成果になっているのだと思います。これも協力してくれる店舗があつてこそその成果だと思いますので、こういった場を拡大していけるように庁舎としても頑張っていきたいと思っております。昨年もHisu花のイルミネーションが始まる前、商工会の方にアプローチさせて頂きましたがなかなか腰を上げて頂けなかったということもあります。庁舎でも頑張りますし、商工会の方と一緒にこの拠点を使っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

## 委員

先ほど渡前の活動センターの体育館についてお話を頂きました。その通りだと思いますが、私からは防災に絡んで、浸水深が高くて床上浸水するような施設のままでいいのかどうか、避難所となるにはちょっと不適格だなと思っているところです。赤川が氾濫すれば当然藤島が氾濫する訳ですので、その間に在る住民が避難する場所となるとほとんど渡前の活動センターなんです。ところがそこも使えないし、小学校の方はもっと浸水深が高いので2階以上に上がらないと洪水の場合には避難できない状況です。

安心して本当に避難できるような施設の整備をお願いするとか、その点から体育館の例えば床を上げるとか、避難場所まで安全に車で来れるというような周辺の整備をお願いしたいと思っているところです。

それから子育て世代から選ばれるまちづくりという言葉をよく使われるわけで、確かにハード面でいろんな施設を作るということも大事かもしれませんが、例えば藤島体育館のトイレが頻繁に使用禁止の張り紙がなされる。それからグラウンドゴルフ場のクラブハウスの手洗いがずっと使用禁止のままでいつまでたっても直らない。農村環境改善センターでは、男性トイレの小便器3台全てに使用禁止の張り紙がありました。7月初めのソフトボール大会時にそういう状況でしたが、先日行ってもそのままでした。ああいったところを見ると、この地域は何なのだろうなど。壊れてもいつまでたっても

直さない公共施設のまんまだって。当然、子育て世代の方々が利用する施設でございますので、こんな地域には住みたくないと思ってしまうんじゃないでしょうか。ちっちゃいところなのですが、そういったところが重なると、やっぱり嫌われるんじゃないかなと思います。簡単にできる修理かと思いますので、どんどん直して行って、いつでも利用しやすい施設運営をして頂きたいと思っていますので、その辺もお考えの上、今後の施策を進めて頂ければありがたいなと思ったところです。

## 萬年会長

予算等も容易でない状況下ではありますけれども、その辺のことは検討頂いて対応を考えて頂きたいと思います。基本計画の部分で意見はございますか。

## 委員

一つは主な施策の1、2ページから3ページ目の5番の庄内農業高等学校と地域農業関係団体が連携し、生徒が集まるように学校の魅力を地域としても押し上げていきたいということについてです。以前、高等学校の統廃合の問題が出てきた時には、藤島の庄内農業高校は何としても存続させてもらいたいという空気が非常に強かったと思います。

ところが今、諦め半分みたいな空気が強くて、県教育委員会の方でこの再編を進めているのだと思いますけれども、そうした中で魅力ある学校づくりを推進しますという表現は地域の高等学校、歴史ある学校をこれからも残してもらいたいということから考えると非常に弱いと思うのです。この学校参画を支援するとともに、学校づくりに推進していきますとかいうような表現はできないのかをお聞かせ頂きたいと思います。

それから、今の主な施策の中の歴史公園ですけども、普段、しょっちゅう通るけども、人が集う姿がほとんど見られないのは非常にもったいない。あれだけ立派な公園があるのに誰もいないという状況をそのまま続けていくのか。子どもの広場みたいなことも合わせてやった方がいいのではないかという意見に関しては、公園の趣旨と違うので駄目という事なのですが、藤が成長するまではまだまだしばらくかかります。もっと子どもたちを含めていろんな方々がそこに集まって遊べるような環境整備に力を入れた方がいいと思いますので、その辺についてどのような表現をしていくのかをお聞きしたいと思います。

それから、災害の関係について、消防団の状況が今様変わりしまして、日中ほとんど若い人は町外の会社等に勤めており、いざ災害が起きたときに消防団の力が十分発揮できない状況にあります。これは他の地域も同じだと思います。防災で強い力を発揮してもらわなきゃならない消防団の実情がその通りですので、そこをどのようにカバーすることを考えていく必要があると思います。自主防災組織も大事ですけども、消防団の関係については一切触れておりませんので、消防団の今後のあり方や望ましい姿を文章の中に入れておいたほうがいいと思うんです。個別の具体的なことは入れない考え方なのか

どうかわかりませんが、それについてお聞きしたいと思います。

#### 成田支所長

消防団については、市民・教育という一つ大きな括りの部会の中で、見直しの提言として防災の範疇を全市に網羅した問題で、対応の変化になるはずなので、本所でまとめる中に組み込まれていくと思います。

#### 齋藤産業建設課長

まず Hisu 花の件で歴史公園につきまして、イルミネーションの期間は多く訪れて頂いているようですが、日陰もあまり無いので日中の利用はなかなか厳しいところもあるのかなと思います。ただ、気候がよかった春先や、藤が咲く頃には訪れる方もちらほらというところでございますけれども、まだまだ歴史公園の利用につきましては定着してないと感じているところです。

このたび、東田川文化記念館が国指定の史跡になったということで、記念館の庭的な存在に歴史公園がなれたらいいなと個人的に考えておりました、歴史公園から記念館への誘導のサイン、歴史公園と周辺の商店、地域の観光施設、記念館を中心に藤島を紹介するような取り組みを考えているところでございます。

藤島地域に初めて国指定の史跡ができたわけでございますので、今後 5 年間、後期計画の中で予算要求をしていきながら、ここからがスタートという気持ちで、観光振興に取り組んで参りたいと考えております。その中で歴史公園の方も市内外に認知されるような公園にしていきたいと考えております。

それから、庄内農業高等学校との連携事業の方は、始まったころから比べてみますと、現在、庄農の生徒の皆さんの頑張りが非常に活発に見えてきていると感じております。

庄農うどん大作戦を核としながらも、農福連携事業や地域の祭りなどでのボランティアの活動など、庄農の生徒さんの力が藤島地域の活性化には欠かせないものと感じております。

もう少し強く書いた方が良くはないかというご意見ですが、統廃合もはっきりしていない中、残していくというような表現は学校が無くなることを匂わせる感じにも受け取られるので、藤島地域に庄内農業高等学校があるという価値を地域の人々で感じながら、支援を進めて参りたいと考えているところです。

#### 成田支所長

Hisu 花の強みというのはやっぱり藤棚だと思うのです。Hisu 花を使った地域づくりの一つとしてボランティアによる花壇の整備や管理、また、藤棚の管理などを行ってまいります。そのボランティアの活動の中に、夏場、藤の花が終わってから、公園の魅力づけになるような仕掛けをボランティアと一緒に考えていきたいという心づもりはしております。

す。通年を通して立ち寄っていただける場所にしていきたいというところです。

皆さんからもこんなことしたら面白いだろうとかいろいろな意見を頂いて Hisu 花の魅力付けにしていきたいと思いますので、ご意見も頂ければと思います。

あと、庄農存続の件については情報がはっきりしていないところがあるので、坂井校長先生からコメントを頂ければと思います。

### 坂井孝朗庄内農業高等学校長

これまでの連携事業について、いろいろなコメントを頂きまして大変感謝しています。

平成 26 年度から、県立高校ではありますけれども、市町村の方からもご協力をいただく形で連携事業がスタートして今年で 10 年目となります。

庄農うどん大作戦は令和元年度からスタートして今年で 5 回目を迎えているところです。最初の連携事業がスタートした部分がポップ、そして令和元年度からの庄農うどん大作戦がステップということで、新たにコロナも明けてさらにいろんな形でこれまでのご協力に対して還元していければと考えているところです。

存続云々についてですが、教育局の今の再編計画のスタートは平成 26 年度からで、来年度、令和 6 年度分までの予定がすでに出ております。令和 7 年度以降の部分に関しては、今年度から県で様々な検討が始まっていて、大枠的なものが年度末或いは新年度あたりに出てくるかなというところです。

再編、合併がいろんな地区で挙げられる中で、これまでの様々なご意見や、藤島地域のご協力もありこれまで頑張ってきた部分を、私から県の方にお伝えしております。我々も含めて皆さんにいろいろご支援を頂いている部分が届いているのではないかという期待を持っているところです。

学校の指導要領も 10 年スパンで変わり、来年度に高校も全学年でスタートする形になっておりますが、その中で地域の連携、探求的な学習、そして社会に開かれた教育課程というふうなことは、全国的にどこの学校でも言われている部分です。庄農でその全てを網羅する部分をこの十年間の中で進めさせて頂いてきたことは非常に意義あることだと思っておりますので、今後ともぜひご協力を頂きながら、何とか頑張らせて頂きたいなと思っております。

今年度から県では産業系高校に対してフューチャープロジェクトという、今まで連携事業でやってきたのと同じような形の事業をやってくれるということで、新しく藤島庁舎のご協力を得ながらやっているところです。

いろいろとご協力頂いている部分を有効にそして前面に出しながら、今後とも頑張っ

### 成田支所長

今の産業高校の話は藤島の連携事業と同じようなことで、県内の産業高校に県から助

成金が出て生徒が地域で活躍するようなアクションを起こしてくださいということで、県の教育局が動いているのです。藤島のこの活動が、県の姿勢を動かしたのかなというように自負をしているところです。皆さんもご存知のようにマスコミの各方面でその活動が見えている状況なのだろうと思います。

委員から言われたことについては、庄農の統廃合等を書くといろいろな軋轢も出てくるかもしれないので、持続して連携するというような表現を検討してみたいと思います。それから Hisu 花のオフシーズンについても、もう少し踏み込んだ書き方を検討したいと思います。

## 委員

期待をしているところが一つあります。5 ページ目ですけれども、藤島地域全域の公共交通網を再構築し、住民の利便性と交通、公共交通、空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系を確立しますと書いてある部分にすごく興味を持っています。今、高齢者で免許返納されている方や交通手段が無いと言って困っている人が結構いると思いますし、障害のある方とかもバスが無くて行きたいところに行けないというのが現状としてあるのです。でも藤島だけだとすると、どこに行こうかなって感じなのですが、交通手段の無い人たちのためのこういった整備をととても注目しております。

## 小林総務企画課長

デマンド交通のご質問を頂きましたのでお答えいたします。

すでにデマンド交通につきましては東栄地区と長沼・八栄島地区の二つに導入されております。

藤島地区・渡前地区には庄内交通の鶴岡－清川線があります。こちらの方は走っているとは言え、バスの停留所から遠いと実質公共交通の空白地帯と変わらないのではということで、毎年職員が乗降調査をしており、低調な利用率と、朝夕の高校生や障害のある方が利用している実態が見えてきております。

庄内交通も民間企業とはいえ公共交通を担っているということで、撤退するというお話しはありません。けれどもいろいろ協議をしておりますと、運転者が不足していること、貸切バスとか長距離の方に運転手を回したい意向もあるなどの苦しい実情のお話も聞いております。

さらに、鶴岡－清川線は庄内町との絡みもございまして、この再編計画につきましては、ゆくゆく庄内交通のバスの距離が短縮されたり廃止する方向になった場合、鶴岡市と庄内町では補助金を投入していますので、その浮いた補助金を基に藤島－渡前地区にもデマンド交通のようなものを導入して、藤島地域全体をデマンドタクシーで賄うことができないかという大きなものでございます。

今のところ庄内交通では今の公共バスを維持するということもあり、庄内町の意向も

配慮しながら、交通弱者、免許返納した方や障害者の方、高校生、そういった方々の交通をどのように確保していくかということが庁舎としての課題となっております。

## 委員

子供会育成会の立場からは、小中一貫校の話が一番大きいと思いますけれども、周りでもその話について大きく話題になることもまだ少ないです。アンケートの返答数も100件ちょっとと少なかったので、まだそこまで大きく自分のこととして考えていないのかなと思いました。

アンケートも学校を通してなど、いろいろお便りをもらったりしてますし、強制ではないですけどもみんなにもう少し強く意見を求めてもいいのかなと思います。

## 萬年会長

1回アンケート調査して、2回目っていうのは、今後はないですか。

## 成田支所長

我々も回答数にはびっくりして、議会でもこの数字でいいのかと言われてます。今はWebの時代なので、携帯で回答できる方法でもやったのですがそれでもこの程度でしたし、強制させることは可能でしょうけれども何回やっても回答数は同じなのかなあと考えておりますので、逆に親世代の方からもっと声を出して頂ければと思っています。実は教育振興会議の委員も、自分たちがその親の代弁をしていいのかという迷いはあるのです。一番は小学校の保護者、それから今保育園、幼稚園等に通っている世代の親御さん達の声だと思います。また、一部では、そのことは市に任せたから回答しない親も多いという意見も聞いてはおります。ただし、そのことを代弁する委員の皆さんもいるので、ぜひ庁舎或いは教育委員会の方にそういった声を届けて頂くとありがたいと思います。

## 委員

アンケートの返答が少ないというのは多分、行政に対するあきらめだと思います。この会議に出ていて、同じ渡前体育館の話はずっとしていても一向に変わらないというのは、諦めも自分の中ではあるというところです。何のために会議に出ているかという部分で変化を感じられないと諦めてしまうし、学校のことだって親御さんの立場になってみればその6年間9年間は真剣に悩むけれども、卒業してしまえば自分のことから手を離れてしまって、言ったってしょうがないというような気持ちになるのではと思っています。

そんな意味で、お金が無いからできないのであれば、お金が無くてもできるようなことを考えていくべきだと自分は思っています。

例えば、先ほどのバスで地域へ足のない方をどうやって運ぶかという話も、スクールバスが全部の集落を回っていますよね。これに子どもだけじゃなく一般の人も乗っている

ことにすれば、行きと帰りの時間の2回分は確保できるわけだし、他県の行政でやっているとあるということをニュースで聞いたことがあります。そういうのは取り入れるのにお金もかからないですぐできることかなと思って聞いておりました。

また、Hisu 花の方の来場者が少ないという部分は、どう考えてもやはり駐車場が使いづらいということだろうと思っています。これも県と連携して、農業試験場や改良普及機関の駐車場を使わせていただくために、あそこに横断歩道一本敷けば、それで駐車場問題も解決するんじゃないかなと思いますし、工夫することはいっぱいあると思っておりました。

今、庄農うどんを生徒、学校は頑張ってくれていますけれども、商工会の担当者が別の方になって思い入れが少ない分、前回今回とちょっと陳腐化しているなど自分は肌で感じています。もう1回てこ入れして、市民がお客さんがワクワクするようなイベントにしていかないと飽きられてしまうと思って、ちょっと危機感を感じています。

そういった意味ではやはり、お金がないからできないのではなくて、アイデアを出してできることをやっていくことが大事かなと思っておりました。

先程、鶴岡市の中心市街地の話がありましたけれども、あそこにお金を使ってどれだけパフォーマンスが上がるのかなと思った時に、そっちよりも藤島地域のトイレ改修に使ってもらった方がお金の使い方としては正しいと思うし、おそらく今回聞いていった方たちも反対意見が出たとして持ち帰るんでしょうけれども強引に進めて、結果中心市街地の予算に回っていくのかなと、ちょっと諦めているところが感じられます。

ぜひ藤島地域だけでも、意見に関しては反対だよってというのは明確にしていくべきかなと思いますし、ひょっとしたら羽黒や櫛引などの地域の方たちも同じ意見を出してくれるのではないかなと思いますので、お金の使い方、有効的な使い方を模索していただきたいなと思っています。

## 萬年会長

費用対効果の上がる予算の組み方ってのがあると思いますのでよろしく願いをいたします。

## 委員

さっきの発言を聞いて本当にかっかりしました。トイレが使えない、或いはどっかが壊れてると言う状況は、鶴岡と一緒にいる前はそんなことはなかったんです。なぜそういうふうになるのか、その状況が庁舎の方に伝わっていないはずはないと思う。お金がないから我慢しろということでは、住みたくなる藤島には絶対なりません。すぐに直してください。

## 成田支所長

我々もそれ以上の声はいっぱい頂いていますが、体育館なり教育委員会に話しをしているところです。

## 萬年会長

管轄外だっていうことではなくて、声を上げて頂ければと思いますのでよろしく願います。

## 委員

PTA 代表の立場としてのお話しですが、鶴岡型の小中一貫教育が令和 7 年度から始まるということで、先駆けて藤島地域でその形について、いわゆる併設型なのか、それから義務教育学校にするのかということをお話し合っているわけですが、先日鶴岡市教育委員会と市 P 連との懇談会がありまして、その中で小中一貫教育について各学校の PTA 会長が集まりまして研修を受けたところです。それぞれでその地域ごとに考えていかなければならないということを、各学校の PTA 会長も認識して頂いたと思います。

藤島地域では、大方の委員の中では義務教育学校がいいんじゃないかという話がありました。私の意見としても、これがいいと言うのが正直難しいと思います。ただ、学校の校舎の老朽化の問題等を考えれば、時代の流れに乗るしかないなというふうに思います。皆さんが義務教育学校に進むというのがいいんじゃないかというのであれば、それに従うべきであると思っています。

ただ、それぞれの問題点は出てくると思うのです。その問題点を改善して、藤島のこの学校のあり方というものをみんなで考えていくということで、100%みんな賛成というのではないと思うのですけれども、私としては多い意見でまずそれを進んで、ちょっとうまくないところはそれぞれ改善していくしかないのかなと考えていたところでもあります。

## 委員

小中一貫校に関わってですけれども、委員の皆さんからは従来のような学校や教育の場オンリーというような施設ではなく、例えば図書館とか、高齢者の方々が出入りできる福祉支援センター的なものと一緒に複合施設として設置し魅力ある校舎を作ったらかいろんなアイデア等も出して頂いています。そのことによって、子育て世代の方々もどんどん選んでくれるのでは、そんな施設を期待しているという声が出されています。実際、どういう学校にするかが決まったら、そういった委員の皆さんの様々なアイデア等もぜひ生かして頂く形で検討をお願いするといいのかなと思っています。それが一つの魅力になっていくと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

それから委員の皆さんの中から一つ、懸案事項として出されているのが文厚エリアの検討で、東田川文化記念館の中に入っている図書館はこのままでいいのかなのか。2 階を明治ホールとして様々な企画等をやるわけですが、1 階の図書館を気にして思い

切った活動等ができない。図書館では、上の明治ホールで催事が催されていると利用するときにはうるさいとか、利用者が困るような状況も見られるということです。文厚エリアの検討の中で図書館機能も併せて、基本の整備計画を作っていただければありがたいと考えています。

確認ですが、東田川文化記念館は文厚エリアに入るんですか、入らないのですか。

### 成田支所長

文厚エリアには入れていませんが、図書館自体も狭隘で、閲覧場所も無くてということも言われています。庁舎としては、文厚エリア整備の際に併せて考えていきたいと考えています。

### 委員

行政サービスではなかなか届かないところがあるかと思えますし、そこにボランティアとかいろいろな形で協力しながら、まちづくりに携わっていけるような場所があればいいかなと思いました。

秋田で今年水害が出ましたけれども、線状降水帯が南に下がれば藤島も間違いなく同じような状態になってしまいます。浸水深の高さの問題は、元々藤島地域が持っていた課題かと思えますけれども、それで死者が何名出たというようなことはあってはならないと思います。お金のかかる話になるとは思いますが避けて通れない課題だと思えます。

私も戸沢村の水害の時、ボランティアで現地は何回か入りました。あそこも想定外の雨が来て、後ろの山からは水が来る、前は止まっていて、だんだん沈んでいく、水が上がっていくっていうところを、ただ見ているしかないという状況でしたし、そんなことが今どこで起きてもおかしくないと思いますので、知恵を出し合いながら乗り越えていかなければと思わせて頂きました。

### 萬年会長

ありがとうございました。中間見直しの課題が何点かあるようですので、その辺は整理して頂いてご提案を願う形になると思いますが、よろしくお願ひしたいと思えます。

### ○ 説明・協議

(3) その他 特になし